

目指す学校像	○児童・教師がともに学び続ける学校 ○挨拶・笑顔・歌声が溢れる学校 ○安全・安心・美しい環境で地域とともにある学校
--------	---

重点目標	<p>1 基礎学力の定着と授業力の向上、学びの自律化、学びの個別最適化の実現</p> <p>2 豊かな心を育てる教育の推進 (挨拶・笑顔・歌声が溢れる学校)、教育相談体制の充実</p> <p>3 学校運営協議会と協同し、保護者・地域に信頼され愛される学校づくりの推進</p> <p>4 児童と教職員、誰もが居心地の良い (Well-Being) 学校づくりと教職員研修の充実</p>
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

4	A	評価達成 (8割以上)
3	B	評価達成 (6割以上)
2	C	評価の進捗 (4割以上)
1	D	不十分 (4割未満)

年度目標		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
年度	目標	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和6年2月8日	
1	<p>〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査の【国語】においては全体的に無回答率が高いが「漢字を文の中で正しく使う」問題に対しての無回答率が特に高かった。一方、【算数】は無回答率も低く、「知識・技能」に関する正答率がとても高かった。 ○令和4年度さいたま市学習状況調査において、【学習に関する関心・意欲・態度】における「算数の勉強は好きですか」の肯定的な回答の割合が市の平均値を大きく上回った。 ○日頃の学習の様子から、与えられた課題にはまじめに取り組むことができるが、自分から進んで学習しようという意欲があまり見られない児童が多い。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語は「読む・書く」力、算数は「数量の求め方」に課題があることがわかった。 ○国語において「無回答率」が全国・市平均と比べて高く、難しい問題や新しい問題に取り組んでみようというチャレンジする姿勢、難しい問題でも最後まで諦めずに取り組む粘り強さを育てることが今後の課題である。</p>	<p>・「さいたま市スマートスクールプロジェクト (SSSP)」の推進</p> <p>・学習の質的向上「学びのポイント (じ・し・ゃ・く)」の推進</p>	<p>①スタディサプリ、ドリルパークを活用し個人に応じた学習の習熟を図る。 ②朝学習の時間を活用し、タブレット学習に計画的に取り組み、国語の読解力と算数の基礎基本を身に付けさせる。 ③ICTを活用し対話的な学びの充実に図り、思考を可視化し考えを伝えあう協働的な学びの場を設定した「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業を積極的に実践する。 ④「よい授業」の4つの因子を生かした授業、算数科における「三室スタンダード」型授業を充実させる。</p>	<p>①スタディサプリ、ドリルパークを授業や家庭学習で活用できたか。 ②朝の「がんばりタイム」の時間に、国語や算数の基礎的・基本的事項の定着を図る教育計画が実践されたか。 ③ICTを効果的に活用した『アクティブラーニング』型研究授業を全学年で実施できたか。 ④エバンジェリストの模範授業を年間に2回～以上実施できたか。 ⑤「よい授業」の因子を生かし、ICTを活用した授業を全クラスで実施することができたか。</p>	<p>①スタディサプリ、ドリルパークを宿題や長期休業中の課題、授業での習熟で活用できた。 ②朝学習「がんばりタイム」でタブレットを活用した学習を位置付け、実施することができた。 ③児童用タブレットやオクリンク、プロジェクターを活用して児童の思考を可視化し、学習内容の定着を図ることができた。 ④エバンジェリストによる授業を年間2回以上行い、授業での積極的な活用から効果的なICT活用へと学校全体でスキルアップを図った。 ⑤全学級で「よい授業」「学びの指標」を意識した授業を実施できた。毎学期、管理職による全教員の授業観察・指導助言を行い、授業力向上につながることができた。</p>	B	<p>・アクティブ・ラーニング型授業の実施や個別最適化学びと協働的な学びの実現に向けて、校内研修でICT活用研修やエバンジェリストによる授業公開を年間計画に位置付け、更なる授業力の向上を図る。 ・全教員が年間1回以上授業を公開することで、互いに授業を見合い、協働できる体制を確立するとともに、管理職による授業観察、指導を次年度も継続して行い、ICTを活用した授業力の向上を図る。 ・「学びの指標」の視点を生かした授業や全校での学力向上に向けた取組を実施し、教員の指導力向上、児童の基礎学力の定着を図る。</p>	<p>・導入間もないICT環境の中で、先生方が創意工夫しながら、授業を行っている姿がとても印象的であった。 ・教員の指導力向上、児童の基礎学力の定着が図られている。 ・コロナ禍によってICT化が進んだことで、子ども達にもICTが自然に入り込んだように思う。 ・教員がICTについて勉強するのは大変なことであると思うが、今後必要なスキルであり、業務のスリム化にも繋がっていくと思う。 ・一人一台タブレットにより、授業での課題への取組が、挙手、発言している児童だけでなく、全員が参加できるようにになっていると思う。 ・学校に来る度に授業の様子や掲示物、教材を見て、様々な工夫がされていることがよく分かる。</p>
2	<p>〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査の結果の生活習慣に関する調査において、「学校に行くのは楽しい」「友達と協力するのは楽しい」で市の平均を大きく上回っている。 ○昨年度の児童対象学校評価アンケートにおいて、「あなたは思いやりの心を大切にしていますか」で肯定的な回答が90%を上回った。 ○昨年度の保護者による学校評価で「学校は読書活動を推進している」「学習環境を整え、美しい環境づくりに取り組んでいる」で肯定的な回答が、90%以上であった。 〈課題〉 ○コロナ禍における生活の変化が児童の心身に与えた影響は極めて大きく、今後も道德教育を核とした心の教育と心を潤す学習環境の整備、児童一人ひとりの心のケアを支援していく体制づくりが必要である。 ○マスクを外し、大きな声で気持ちよく歌うことを体感させ習慣化することで心を開き、円滑な人間関係を育む。 ○朝読書の推進により落ち着いて一日が始まり、授業に集中できる心理状態、教育環境の整備をすることで充実した学校生活を送ることができる児童を増やす。 ○低学年に支援が必要な児童が多く、SAの配置や人的支援など、組織的な支援体制づくりは喫緊の課題である。</p>	<p>・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・教育相談に向けた校内体制の充実</p>	<p>①、道德授業を核とした心の教育と積極的な生徒指導の推進 ②「いのちの支え合い」を学ぶ授業や道德教育を中心に、命の尊さ・思いやりの心・規範意識等について自分の事として向き合い、考えを深める。 ③定期的にケース会議を開くと同時に、情報端末を活用して児童一人ひとりの状況を的確に把握し迅速な対応ができる校内体制を構築する。 ④配慮を要する児童の個別相談シートを作成し、保護者との面談を通じて理解を深め、支援の方策を確認する。</p>	<p>①学校評価 (児童) 「先生は困ったり悩んだりしたときに話を聞いてくれますか」の項目の肯定的な回答が90%以上であったか。 ②学校評価 (児童) 「あなたは思いやりの心を大切にしていますか」「三室小の約束を守っていますか」の項目の肯定的な回答が90%以上であったか。 ③学校評価 (保護者) の「学校は子どもの悩みやトラブル等について適切に対応している」の項目で肯定的評価が90%以上となったか。 ④個別相談シートを作成し、保護者面談を確実に実施することができたか。</p>	<p>①SC、SSW、関係機関と連携しながら、校内教育相談体制を強化し、児童に寄り添いながらトラブルや悩みに対応することができた。 ・学校評価アンケート「悩みや困ったことがあるとき、誰かに相談できますか。」における肯定的な回答85% ②「いのちの支え合い」を学ぶ授業や道德授業を中心に、思いやりの心や規範意識の育成を行うことができた。 ・学校評価アンケート「毎日、友達と仲よく過ごしています。」における肯定的な回答97% ・学校評価アンケート「三室小のやくそくや生活目標を守って生活しています。」における肯定的な回答93% ③ケース会議の実施や情報端末の活用で、学年や学級、児童一人ひとりの状況について情報収集、共通理解を図り、迅速に対応できる体制づくりができた。 ・学校評価アンケート「学校は、児童の悩みやトラブル等に適切に対応している。」における肯定的な回答92% ④配慮を要する児童の個別相談シートの作成やSC、SSWと連携した保護者面談の実施により、保護者に寄り添いながら効果的な支援の方策を考えることができた。</p>	B	<p>・次年度も道德授業や「いのちの支え合い」を学ぶ授業を中心として心の教育の推進を継続していく。各学期に管理職による授業観察、指導を行うとともに、全学級で道德授業の授業参観を行う学校公開日を設け、授業を公開することで、保護者の理解、協力が得られるようにする。 ・情報端末を活用した情報収集、共通理解のさらなる推進を図るとともに、教育相談、ケース会議を年間計画に位置付け、児童の悩みやトラブルに対して、迅速かつ組織的に対応できる校内体制を構築していく。 ・配慮を要する児童について、ケース会議や保護者面談を重ね、全教職員での組織的な対応ができたが、より効果的な支援が行えるよう、今後も外部機関を積極的に活用し、連携を密にしていく。</p>	<p>・教育相談の組織は、学年や学級の枠を超え、SCやSSW、養護教諭等も含めた連携で機能している。 ・生徒指導や教育相談、特別支援教育等において、必要に応じて関係機関と連携しながら対応することができている。 ・150周年関連事業への参画を含め、心豊かな児童を育むための学校の姿勢が随所に見られ、素晴らしい。</p>
3	<p>〈現状〉 ○昨年度、学校運営協議会準備委員会において、次年度に向けた具体的な改善策 (①国語力 (書く力) の向上②笑顔と挨拶溢れる学校③コミュニティー・ファームの開園) を共有し本年度の学校運営協議会のテーマとした。 〈課題〉 ○学校運営協議会で共有した指導項目を地域・家庭等に周知し、共通理解の下、より具体的な取組について熟議し、その実現に向けた方策を定め継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。 ○学校運営協議会の熟議の進行を工夫し、より関連な意見交換ができるようにする。</p>	<p>・児童、保護者、地域から信頼される学校づくりの推進</p> <p>・目指す児童像「かしこく・やさしく・たくましく・うつくしく」を地域全体で共有しそのための方策を熟議する。</p>	<p>①学校運営協議会を年3回開催し、熟議をもとに協働活動を行う。 ②地域や保護者へ教育活動の情報発信を学校だより、学校安心メールやHP、を活用して確実に情報共有する</p>	<p>①さいたま市学習状況調査の「読書が好きか」の項目において、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上とする。 ②季節ごとに草花が植え替えられているか。 ③学校評価 (児童) 「好き嫌いなく食べているか」の項目で肯定的評価が80%以上となったか。 ④学校評価 (保護者) 「学校は、児童のよさを見付け、伸ばしている」の項目で肯定的評価が80%以上となったか。</p>	<p>①全学級で朝の読書活動、読み聞かせを推進し、毎日落ち着いた状況で1日をスタートさせることができた。 ・さいたま市学習状況調査の「読書は好きですか。」の項目における肯定的な回答83% ②季節ごとに植物を植え替え、花に囲まれた美しい環境づくりができた。 ③地場産物を使用し、季節や行事等に合わせた献立を企画することができた。 ・学校評価アンケート「学校の給食を楽しみにしています。」における肯定的な回答97% ④150周年記念行事への取組や行事の実施を通して、児童に愛校心や所属感をもたせるとともに行事をやり遂げた達成感を味わうことができた。 ・学校評価アンケート「学校は、児童のよさを見付け、伸ばしている。」における肯定的な回答94%</p>	A	<p>・朝の読書活動を日課表に位置付けて確実に実施する。全学級で教師による読み聞かせや本の紹介も行い、読書活動の更なる推進を図っていく。 ・花に囲まれた美しい環境づくりについて、児童が保護者や地域住民とともに行う機会をつくり、学校と保護者、地域が連携して環境づくりを進めていくことができるようにする。 ・児童の食への関心を高める活動を全校挙げて取り組んでいく。次年度も給食週間や給食委員会等、児童が主体となる取組を年間計画に位置付け、実施していく。</p>	<p>・校長を筆頭に、積極的に地域と関わる姿勢が見られ、そのおかげで地域と良好な関係が築けていると思う。 ・防災訓練等について、地域として学校と連携して行うことができていると思う。 ・保護者、地域から信頼される学校づくりに向けて、学校公開の内容や学校ホームページの見直しを図る。児童の活動の様子や特色ある教育活動を積極的に発信し、保護者、地域の協力を得られるようにする。</p>
4	<p>〈現状〉 ○教職員一人ひとりがICTの研修を受講し業務を効率化、時間短縮化ができるようになってきた。 ○ICTの活用及び業務の効率化については個人差があり、依然課題がある。 〈課題〉 ○ICTの活用について、教員間で取り組みの差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境作りが求められる。 ○働き方改革を視点とした業務改善が必要である。</p>	<p>・教職員一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地の良い (Well-Being) 学校を作る。 ・教職員の職務遂行能力向上を図る研修と環境の充実</p>	<p>①「よい授業」の4因子を意識した授業を実施し、教員一人ひとりに目標因子を設定させる。 ②「三室小の一日」を共有し、よりよい教職員関係の構築と共通行動が取れるようにする。 ③ICTサポーターによる研修を年間計画に位置づけ教職員全体のスキルアップ及び、エバンジェリストを中心にICTを活用した授業実践及び授業公開を実施する。</p>	<p>①よい授業アンケートの一人ひとりに合わせた目標の因子が2pt向上したか。 ②教職員による評価「共通理解を心がけ、指導している」項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ③学校評価 (教職員) 「ICT機器を積極的に活用した授業が展開できた」「研究授業や研修を通して、ICTのスキル及び指導力が向上した」の各項目の肯定的な回答が80%以上となったか。</p>	<p>①全教員が「よい授業」の4因子、「学びの指標」の視点を意識した授業を実施したことと授業改善、学校の教育力の向上を図ることができた。今年度は「学びの指標」全校調査を1回実施した。 ②三室小の一日や生徒指導、教育相談について、年度当初に全教職員で共通理解を図り、教職員協力体制と共通行動が取れる校内体制の強化を図ることができた。 ・学校評価アンケート「全教職員の共通理解のもと、生徒指導・教育相談が行われている。」における肯定的な回答100% ③ICTの積極的な活用から効果的な活用へと向上させるため、ICTサポーターによる研修やエバンジェリストによる授業公開を実施し、教職員全体のスキルアップを図ることができた。 ・学校評価アンケート「よい授業因子を生かし、ICT機器を効果的に活用した授業を実施することができた。」における肯定的な回答88% ・学校評価アンケート「ICT活用研修の実施により、ICTを活用した授業力の向上が図られている。」の肯定的な回答100%</p>	A	<p>・ICTサポーターやエバンジェリストによる研修を年間計画に位置付けるとともに、学校課題研究の充実を図り、教職員のスキルアップ、学校の教育力向上の取組を進展させていく。 ・次年度も各教職員の業務や職場環境について、教職員アンケートによる実態把握や校内委員会における改善点や改善策の協議を行い、教職員一人ひとりが力を発揮し、気持ちよく働くことができる環境づくりに取り組んでいく。</p>	<p>・いじめや不登校等の対応において、教職員の報告・連絡・相談・見届けの体制が整っている。 ・教職員の心身の状態は、そのまま子どもたちに影響を与えるものでもあるため、働きやすい環境の構築に向けて、引き続き努めていただきたい。 ・教職員が共通理解を心がけて指導していることへの評価が高かった。 ・校長先生が掲げる明確な方針が感じられ、それを受けて先生たちが授業を組み立てているように感じた。</p>

